

## 「沖縄県の子宮頸部病変における HPV 感染について」

### ●研究の目的と意義：

本研究の目的は「沖縄県の子宮頸癌と子宮頸部前癌病変の HPV の感染率、HPV のタイプ、HPV の存在様式を明らかにし、本県の特徴を把握する」事です。前述の様に 120 種ある HPV のうち、癌発生に関わるものはハイリスク型とされ、HPV16 型や 18 型を代表として 31, 33, 35, 52, 58 型等が知られています。約 10 年前に沖縄県の子宮頸部より検出される HPV の感染率と型別頻度が調査され、子宮頸部前癌病変と子宮頸癌では高率に HPV が検出されている事が報告されています。さらに注目すべき点は欧米では HPV16 と 18 が主要なタイプであるのに対して、沖縄県では HPV16 が 33~42%と最も多い他は HPV33, 58, 18, 52, 31 が 6~9%で推移している事です。この様に沖縄県では HPV18 の感染率は欧米ほど高くなく、その他のタイプが検出される特徴がありますが、その後 10 年間でウイルスのタイプ別感染頻度がどのように推移したか報告がありません。これらのハイリスク型 HPV は感染当初は細胞質に存在していますが、癌化した細胞ではヒトの DNA に入り込んだ状態となります。HPV の存在様式は癌化に重要な働きをしていますが、子宮癌や子宮頸部前癌病変で検討した報告は少なく、沖縄県の症例では未だ検討が行われていません。本研究では HPV の感染頻度やタイプの決定のみならず、疾患カテゴリーごとの HPV 感染状況の比較検討や調査期間内に病変が進行した子宮頸部病変にみられる HPV の

タイプや存在様式の変化も明らかにします。このような多角的検討事項を通して臨床的に重要な情報を見出し治療や発症予防法の開発の為に基礎的データを提供します。

●研究の対象：

琉球大学医学部附属病院において診療を受けた子宮頸部病変（子宮頸部異形成や子宮頸癌）の患者さんから、（１）検査や手術で切除した病変部から作製された病理組織標本のうち、診療後の残余試料と、（２）病理診断や治療内容などの病気に関する臨床情報、の２点を提供して頂き、本研究を行います。なお、病理学的検査に関する説明で、包括同意に同意して下さった方のみを対象といたします。ただし、この研究の対象になる方々であったとしても、下に書いてあります「本研究への利用お断りの連絡先」にお知らせいただいた方の残余試料や臨床情報は一切使いません。

●研究の方法：

本研究で用いる病理組織標本は切除された子宮頸部病変（子宮頸部異形成や子宮頸癌）の診療後の残りの部分です。従って患者さんがこれまで受けた診断や治療には全く影響を与えません。この病理組織標本を用いて HPV 感染の有無、HPV のタイプや HPV の存在様式を検討します。この様に琉球大学医学部附属病院に保存された病理組織標本を用いる研究ですので、患者さんから新たに組織を採取したり、採血する等、患者さんに痛みを伴う操作は一切ありません。

●個人情報保護に関する配慮：

診療録には個人情報を含みますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象患者の方々の識別は、研究代表者の金城貴夫が責任を持って匿名化した上で管理しますので、個人情報が院外に出ることはありません。また、このホームページにおいて、研究について公開し、問い合わせに応じて、患者さん等からのご希望があれば、その方の病理組織標本と診療録は研究に利用しないようにします。

●照会先及び本研究への利用お断りの連絡先：

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

琉球大学医学部保健学科生体検査学講座形態病理学分野 金城貴夫

TEL：098-895-1278、FAX：098-895-1434